

平成 26 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0491200200
法人名	株式会社宮城登米広域介護サービス
事業所名	グループホーム憩いの里かがの ユニット名
所在地	宮城県登米市中田町石森字加賀野二丁目26番地2
自己評価作成日	平成26年 9月 5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	宮城県仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 26年 9月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

落ち着いた雰囲気作りにBGMを活用し、朝はゆっくりつるげるようオルゴールやオカリナの唱歌等の音楽を流す等、時間帯に応じて活用している。また、音楽を使用したグループ回想法を取り入れ、歌入りの唱歌や思い出の歌謡曲を懐かしい当時の映像とともに流し、入居者同士が曲にまつわる思い出や思い出を共有し、また職員は入居者が生活してきた時代背景を知ることにより入居者の価値観等を理解でき、入居者同士、対職員が語らいながら関係を深めるよう取り組んでいます。その効果が、共同生活室で過ごす時間が増え、入居者の声が以前より聞かれ、関係性が豊になって一緒に行う生活行為が増えて来たように感じられます。今後、更に関係づくりに努力し、観察力を高め、その人らしい生活づくりに取り組んでいきたいと思えます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

登米市役所より国道398号線を中田方面へ、車で10分程の大型店舗が点在する裏手の一画にある。平成24年に開設。母体の運営法人「(株)宮城登米広域介護サービス」は16年前、行政主導で設立され、訪問介護、ディサービス、ケアプランセンターを運営している。職員は家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら毎月一回の面会の機会を設け、関係性が途切れないように配慮している。通院や外泊等の機会も積極的につついている。開設間もないが、理念に掲げた「地域と共に、家族と共に・・」の取り組む姿勢が強く感じられる。地域の認知症ケアの総合拠点となるよう期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	項 目	取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通い場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

2 自己評価および外部評価結果(詳細)(事業所名:グループホーム憩いの里かがの)「ユニット名」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	昨年12月、開設時に掲げた理念を全職員で再確認し、できていること、できていないことを確認し、できていない部分の改善に取り組んでいる。	開設時に掲げたユニット理念、「一人ひとりの思いを話せるような生活の支援をします。いつも明るく笑顔で優しく接します」この他、具体的な目標「接し方、食事、入浴、排泄」の四項目を掲げて生活の支援の基本としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所8軒の方々、防災協力員として登録していただいている。散歩等の際に挨拶を交わし、時にお裾分けを頂いたりしている。また、同地域の方に畑作りの協力と指導を頂いている。	町内会の連携は区長の積極的な力添えにより地域の一員として交流している。敷地内の畑作りから野菜の栽培まで、協力していただいている。この度、近隣の家の方々から防災協力隊員として登録された。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営会議等を津通じて、活動状況等をお知らせしている。また、今年3月から共用型の通所介護を開始し、地域の方々へ更なる理解と支援を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日常的な活動や入居者の状況を報告し、それに対する意見を積極的に頂くようにしている。昨年末から、防災について話し合わせ、地域区長の仲介により協力員を紹介していただいている。	2ヶ月に一回、市福祉課、包括支援センター、区長、民生委員等が参加している。活動や入居者の状況報告や地域の行事(祭り)等の情報を得ている。防犯灯の設置等話し合い、サービスの向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議のみならず、適宜報告および相談を行うと共に「かがのだより」等で、日頃の活動状況をお知らせしている。	推進会議には毎回参加して頂き活動状況を把握して貰い、市担当者とはその都度連絡をとり相談し指導を得ている。生活保護や各種加算算定の相談等協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	理念の再確認時、言葉づかいについての反省が挙げられ、スピーチロック等の不適切な対応等が挙げられ、会議の際に研修会や勉強会を行い、取り組んでいる。	法人独自の身体拘束に関する規定を作成し実践している。内、外部の研修により、職員全員が正しい理解に努めている。言葉遣い等の反省が会議で議論され、玄関の施錠を含め、身体拘束による入居者の弊害について理解し、拘束のないケアに努めている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束同様、日頃から言葉づかいや認知症の中核症状や周辺症状について話し合い、会議等で勉強会を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入社時のオリエンテーション等に概要を伝えているが、現時点では対象者が無く、今後学ぶ機会を持ちたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約および解約、改訂等時には、懇切丁寧を旨とし、文書にて理解納得して頂く様に説明し、同意を頂いている。また、その後においても、不安や疑問等につついて説明を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には、入居者およびその家族に輪番で出席していただいている。また「かかのだより」や玄関等へ写真を掲示して活動状況をお知らせしている。	毎月の支払時、面会時、電話等で家族から意見、要望を聞いている。運営推進会議には交代で家族が出席している。相談窓口として他に支所の介護課、国保連の連絡先が周知されている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月2回の会議において、入居者の状況を確認すると共にサービス提供体制や手順等の話し合いを行っている。毎回ではないが、本社から統括事業部部長が会議に出席している。	毎月開催する職員会議の席で職員から意見、提案を聞いている。その他、年2回の人事考課の面接時に運営に関する、意見、要望を聞いて運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に2回の人事考課を実施し、その結果を管理者から各職員へフィードバックしている。その結果によって、給与や賞与に反映している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	昨年、会社全職員対象の社内研修を実施している。また、宮城県介護研修センター、GH協議会等の開催する研修に参加している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	昨年、登米市介護保険事業者連絡協議会が発足、GH等の入所施設部会等での情報交換、また研修会を開催、参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	在宅時の生活状況や家族関係、現在抱えている問題や不安、こだわり等を伺うとともにどのような生活を望んでいるのか、またどうしたらその生活に近づけるのかを一緒に考えていくという雰囲気と話しやすい関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	現在困っていることや不安なこと、またどのような関係でどんな生活を過ごしてもらいたいのかを共に話し合い、協力して一緒に考えるという関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入前、心身の状況や生活状況、家族状況を含めて話し合い、本人にとって必要な生活環境やケアサービスについて提案すると共に、担当ケアマネジャーとの情報交換を行う様にしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家事や炊事等、本人が得意としていること、できることやできる可能性があることを声がけするとともに一緒に行う中で、可能性を追求するようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	心身の状況や生活状況を伝え、家族としてできる役割、関わりを一緒に考える様にしている。また、「かがのだより」や写真の掲示等で、実際の生活の模様をお知らせしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	働きかけ不足のためか、外出を好まない方がほとんどであり、今後の課題として捉えている。	積極的に外出を好む入居者は少ないが、馴染みの病院、理美容院へ外出したり、近くのコンビニへ食材の買物に行っている。ホームには家族、親族の面会も多く、家族と外食・外泊の機会も有り、支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	しりとりやことわざ、懐かしい歌や映像をツールとして、思い出を共有して語り合える機会を持ち、また、難聴や集中力低下からの聞き違いや勘違いする場面を見逃さず、代弁修正を行う配慮を行い、関係保持に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院のため退所され、現在自宅療養中の方への見舞いを現在継続している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	「気ままは言わない。」世代の方で、遠慮している部分があるが、本人の性格やこだわり、入居者間の関係を含め、何気ない言葉や表情、行動も含めて、思いやこだわりを把握するよう努力している。	入居者の一人ひとりの生活歴・背景からうかがえる本人の性格や嗜好にもとづき、本人の様子や状態の変化を見ている。担当職員が中心に、入居から今までの情報を参考にし、思いや意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	普段の生活行動、会話の内容等を家族へ伝えることで得られる情報や、また家族の知らない情報もあり、家族との関係づくりが大切と考え、努力している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の健康状態、食事や水分、また排泄状況を確認するシートに加え、過ごし方を文書で記録している。また、生活の変化に応じて24時間のチェックシートを活用して、傾向と対策を確認するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成担当者と担当職員を中心にアセスメントを実施し、カンファレンス会議後暫定の計画書を全体の会議で検討している。	カンファレンス記録やケアプランチェック表を基に、年2回見直しをしている。カンファレンス会議後、計画書を全体会議にかけ、入居者個人の現状に即した介護計画を作成し、家族の同意を得ている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践について、個別に記録し、カンファレンスにおいて担当職員から、気づきや気になっていることを発表し、全職員から意見を聞くようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日課や業務の手順にとらわれず、個々の希望や心の動きに応じて個別の対応ができ、周りがそれをフォローできる体制づくりに取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	現在、災害時の防災協力員の皆さんと畑作りの協力と指導をいただいているところで、今後広げるように努力していく。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続が基本だが、家族都合で受診時の協力が得られない、また遠距離で半日以上時間を要す方の変更を依頼した実績あり。	入居者のほとんどが、かかりつけ医を受診している。必要に応じ皮膚科や症状に応じて医療機関を受診している。日常的な健康管理、口腔ケア、緊急時の対応は協力医療機関の市立病院、歯科を受診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	登米市訪問看護ステーションと契約し、毎週水曜日の午前に訪問している。受診時の情報やその経過、医療面に関する相談助言をいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時の医師への情報提供、また退院時のサマリーへの出席等、またその後の経過について家族と共有しながら病院関係者との関係づくりを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時、施設の看護介護状況および設備状況について説明し、重度化の場合や終末ケアについて、説明を行っている。	前回掲げた目標達成計画の家族への説明及び医療機関との話し合いは、現在継続中である。但し、3名の入居者は急変時に医師と本人の在宅医療計画書に同意している。職員は急変時の対応が不十分で、不安の払拭を図るよう努めていただきたい。	目標達成計画に取り組んでいるが、意思確認書の作成まであと一歩である。職員の研修教育も合わせ、重度化及び終末期に向けた方針の確立を期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の確認作業と連絡方法等については、周知しているが、応急手当や書記対応については、行っておらず、今後の課題です。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の8名の方に、防災協力員として自動通報装置に登録、火災時は自動で連絡され、駆けつけて避難誘導の協力の同意を頂戴し、今年8月に訓練を実施している。	夜間想定を含め年2回の避難訓練を実施している。消防署が立合い、8名の地域住民の防災協力隊員が加わり実施した。スプリンクラー、自動通報装置、火災報知器の点検も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	認知症の中核症状と周辺症状の理解不足から、不適切な声がけ対応が見られ、会議等で勉強会を行い、理念に沿った対応を目指している。	呼び方は苗字、名前をさん付けしている。「入居者の人権・プライバシー、尊厳を守る生活支援を行います」をモットーに生活の支援をしている。失禁時などのトイレ誘導は、さりげなく対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何気ない会話から、思いやこだわりを知ることがあり、個々の性格に応じてすぐに行動に移したり、内向的な方には一緒に決めたり対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	できる限り心の動きに応じて柔軟に対応している。ただ、自分からはどう過ごしたいかは難しく、働きかけを行い、その言葉や表情等から判断していることが多く、更に理解を深めていく。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替え等の衣類を一緒に選んだり、鏡の前で整容の手伝いをしている。また、髪型もこだわりや生活習慣に応じて理美容院を定期的に利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ジャガイモやタマネギ等を切ったり、味付けや盛りつけ、テーブル拭き等の準備や皿洗い等の片付けや収納をできる所をそれぞれ行っている。	職員と入居者で調理している。栄養士がカロリー計算した1ヶ月分の献立表を作成する。食事は一緒にサポートしながら食べている。外食もあり、誕生会には、特別弁当にケーキ、寿司等もある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	当社デイサービスの栄養士の献立に従い、個々に応じた調理や代替え食材を使用したりしている。また、1日の水分量を把握すると共に嗜好に応じてコーヒーや紅茶を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きや口腔清拭、義歯の洗浄を個々の能力に応じて介助している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	24時間シートにて排泄パターンを把握し、チェック表等で日々の排泄の状況を記録し、トイレでの排泄を支援している。	ユニット理念4個の一つ「排泄」には「個々人の排泄周期に合わせ、清潔を保つ、プライバシーを守る」をモットーとして排泄の支援をしている。24時間シートにてパターンを把握し、トイレでの自立排泄の支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便周期に応じて、医師の指示に従い、下剤の調節を行っている。食物繊維や調理法、または運動等については今後の課題である。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に入浴日と時間を設定はしているが、気分に応じて時間帯をずらしたり、入浴日を変更したり、柔軟な対応をしている。	毎日入浴は可能であるが、1日～2日おきが多い。好みの入浴剤を入れゆったり・のんびり入浴を楽しんでいる。季節を感じるゆず湯やしょうぶ湯も楽しみの1つである。2人介助の入居者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣、または気分に応じて、自室や小上がりの畳等で休息している。また、気分や体調に応じて食事時間や入浴時間をずらしたりしている。但し、清華が不規則にならないよう配慮はしている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容や副作用の周知を図り、一包化による服薬ミスリスクを避けている。また、生活パターン、覚醒不良等の把握に努め、状況を主治医へ報告相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	炊事や食事の準備、洗濯物干しやたたみ方等能力に応じて行っている。また、唱歌や歌謡曲等、昔の映像流し、楽しんでいただくと共に楽しみにしていただけるよう働き掛けしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や外出については、柔軟に対応しているが、あまり好まない方が多く、今後力を入れていきたい。	入居者は外出をあまり好まないが、四季折々の花見やチューリップ祭り、あやめ祭り等に法人の車で出掛けしている。外食も月に2回実施している。個別には理美容院やファミリーショップに出掛けしている。家族と2～3日の外泊も見られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望や能力に応じて、また家族の了解の上、少額の現金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望には、その都度対応している。手紙については、習慣がない方がほとんどで、今後は年賀状の作成等、支援していきたい。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	BGMを活用し、朝はオルゴールやオカリナ等の季節の音楽や唱歌を流し、ゆったりと一日が始まるようにし、季節感ある装飾を施したり、活動写真を掲示したり、テレビから流したりして活動を振り返ったりしている。	空調管理が良く、温度差がなく快適である。生活の様子をビデオで撮影しテレビで放映して、入居者の興味を引いている。居間の壁には皆で作成した季節感のある貼り絵や活動の様子の写真等が貼ってある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同生活室や小上がり、西側のスペースで過ごす時間が増えつつあり、今後も居心地の良い環境、雰囲気作りに工夫していきたい。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に馴染みの物を持ち込んでいるが、活用しきれていない部分があり、今後の課題である。	ベッド、筆筒は備え付けで、馴染みの物は少なくさっぱりとしている。部屋の飾りつけはそれぞれ工夫して花や写真が飾られ、居心地の良い部屋になっている。各部屋は明かりが差し込み心地良い庭の風が流れていた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所が解るようにサインを取り付けたり、一息付けるように廊下にベンチを設置している。一人ひとりの可能性を引き出すように、生活観察力と情報の使い方を勉強していきたい。		